

さがみはら生物多様性 ネットワーク ニュース

Vol.1
創刊号

発行日 平成28年6月

発行 さがみはら生物多様性ネットワーク

2月13日 さがみはら生物多様性シンポジウム開催結果

1 基調講演 「相模原における蝶類多様性と外来種問題」

日本大学生資源科学部教授 岩野秀俊さん

市内で見られる様々な蝶のなかには外来種も含まれ、分布が拡大していること、生物多様性の保全のためには生きものの生息状況の把握が重要であり、情報収集や管理のあり方について検討していくことが重要であることなどをお話いただきました。

2 基調講演 「これぞ相模原！生物多様性から見た地域のセールスポイント」

相模原市立博物館学芸員 秋山幸也さん

相模原市には絶滅危惧種に指定されているような希少な生物が数多く生息・生育しているだけでなく、市内各地に貴重な自然環境や特徴的な自然環境があり、それこそが地域の多様性であるということをお話いただきました。

3 事例発表 「木もれびの森の保全活動について」

NPO法人相模原こもれび 海野基之さん

市街地に残された貴重な森である木もれびの森を明るく健全な森として保つために、間伐（かんばつ）や草刈りなどの活動を続けていること、それが様々な生きものの生育・生息にとって大変重要であることなどを発表していただきました。

4 事例発表 「田んぼとゲンジボタルの保全について」

田名・望地のゲンジボタルを守る会 小野慎一さん

活動場所である望地河原には、ゲンジボタルをはじめ水生昆虫やカエルなど様々な生きものが生息しており、それらを守るための活動をしていること、これからも周囲の環境を保全していくことが大切であることなどを発表していただきました。

5 トークセッション

最後に発表者によるトークセッションを行いました。参加者からは「田んぼにいるカエルはどこからくるのか」、「山でヒルの被害にあわないためにはどうしたらいいか」といった質問が出され、生きものの話題で盛り上がりました。



トークセッションの様子

会長あいさつ

さがみはら生物多様性ネットワーク 会長 田所 昌訓

会員の皆様方におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、さがみはら生物多様性ネットワーク会報が会員の皆様のご尽力のおかげで発行されることとなりました。

本ネットワークは、平成28年2月13日に、市民・団体・事業者・行政等がそれぞれの役割を担いつつ、相互に連携・協力して生物多様性の保全とその恵みを持続可能に利用するための取り組みを進めていくことにより、人と自然が共生する社会の実現を目指すことを目的に設立されました。

同日に開催されました「さがみはら生物多様性シンポジウム」では、「地域で取り組む生物多様性の保全」をテーマに、有識者による基調講演や地域で活動されている団体の事例発表といったプログラムの中、おかげさまで会場は満員御礼となり市民の皆様の関心の高さを改めて実感したところでございます。

今年度の取り組みでは、この会報誌の定期的な発行のほか、昨年度に引き続きシンポジウムの開催も予定しております。また、様々な機会を通じて会員の皆様の日頃の活動などもご紹介してまいりたいと考えております。

今後も、生物多様性の保全に向けた取り組みを積極的に進めるため、会員の皆様とともに行動してまいりたいと考えておりますので、関係各位におかれましてはご支援とご協力をお願いいたします。

コラム

生物多様性って何？

生物多様性って難しい言葉ですよ。具体的にはどんなことなんでしょうか？

それは、生きもの同士の「つながり」と「個性」と言い換えると良いかもしれません。

「つながり」とは、食物連鎖というつながりや親から子へという世代のつながり。

「個性」とは、私たち一人ひとりの個性や地域の特色。

こうした生きもの同士の「つながり」と「個性」は私たちの暮らしと生きものの命を支える様々な恵みをもたらしています。衣食住はもちろん、芸術や文化の源泉として。

生物多様性からの豊かな恵みを次世代を担う子どもたちに引き継いでいくこと。それは、私たちの今の暮らしをもう一度見つめ直すことでもあります。

私たち一人ひとりが生物多様性を理解し、行動していくことが何より大切です。皆で一緒に考えて行動していきましょう。



コラム

オオキンケイギクは特定外来生物です。

右の写真のような花を見たことはありますか？この花はオオキンケイギクといって日本国内では、他の植物と共存できない植物です。



北アメリカ原産のキク科の多年草で、5～7月頃に黄色い花を咲かせます。主に観賞用・緑化用として国内に持ち込まれましたが、繁殖力が強く、日本の生態系に重大な影響を及ぼすおそれがある植物として、平成18年2月に外来生物法による「特定外来生物」に指定され、**栽培、運搬、販売、野外に放つことなどが原則禁止されています。**

きれいな花ですが、人の手でこれ以上拡げないようにしましょう。

なお、オオキンケイギクの一般的な駆除方法は下記のとおりです。

- 1 根から抜き取るか地際で刈り取る。
- 2 生きたままの運搬が禁止されているため、抜き取ったり刈り取ったりした個体は、種子などが飛び散らないように袋などに入れ、枯れさせたあとに処分する。

会員紹介コーナー

市内で活動している会員をご紹介します。

NPO法人「畑と田んぼ環境」再生会



田んぼや畑を生き物で溢れる豊かな自然環境として再生し、心和ませる風景を守っていきこうと活動しています。毎年研修を実施し、規定の回数以上受講した人に会が農家から借りている田んぼを割り振ります。会員は自然な農法を行う原則を守りながら、担当の田んぼや畑で各自が工夫し自由な自給自足的生活を楽んでいます。田んぼと畑の割合は7:3くらいで、広く耕作する人、狭い人様々ですが、1人平均300平方メートルほどを耕しています。

連絡先 田島 清春

電話 090-5195-7404

Eメール tajima25559518654@docomo.ne.jp

会員募集中！！

さがみはら生物多様性ネットワークに入会して、生物多様性の保全と一緒に取り組みませんか。

ネットワークの趣旨に賛同する個人・団体・事業者で、活動に積極的に参加していただける人であれば、どなたでも入会できます。

年会費・・・1口 1,000円

個人会員・団体会員 / 1口以上
事業者会員 / 2口以上

さがみはら生物多様性ネットワーク事務局
(相模原市水みどり環境課内)

〒252-5277

相模原市中央区中央2-11-15

電話：042-769-8242

FAX：042-759-4395

Eメール：midori@city.sagamihara.kanagawa.jp

入会申込書のダウンロードはこちらから↓

相模原市生物多様性ポータルサイト

<http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/seibutsu/index.html>